

# 就任のごあいさつ

to Dear Rotarians in D. 366

平井 常次郎

## 峯村前ガバーにお礼

ここに1975年—76年のロータリー新年度を迎え、第366地区が新しい奉仕活動を展開しようとするときに当って、わたしは親愛なる地区内の全ロータリアンの皆さんとともに、直前ガバナーの峯村さんに対し、心から深甚なる謝意を表したい。

過ぐる一年間における峯村さんの、素晴らしい行動力に富んだ、そして超我的奉仕に徹した精力的な活躍には、いつも心打たれるものがあった。

この春四月、イギリスの第122地区から招いたGSE研究グループ交換チーム受入れの、あのみごとな成功を忘れられない。わたしはボカラートンにおける国際協議会のとき、第122地区の前現両ガバナーである Smith, Broome 両氏と会い、親しくいろいろと語り合ったが、このふたりは、しきりに「ミネムラ、ミネムラ」を連呼して、いかにこの研究グループが日本で印象ふかい歓待を受け、日英両国民の間の理解を深める点で効果があったかについて力説するのであった。峯村さんとともに、百々委員長をはじめ当時の関係諸氏の努力のほどを、しみじみと右難く思ったことである。

また峯村さんは、青少年の問題についてもいつも Robbins 前会長の理想を高揚して邁進されたし、ロータリー財団に対する寄与も持筆すべき成果をおさめた。

その他あれこれと、いちいちその事蹟を挙げれば限りがない。深くお礼を申し上げるとともに、後続のわれわれに対して、指導と支援を与えられんことを願う。

## 新しいTargetのもとに

去る6月21日、大阪のロイヤルホテルで催された第366地区の協議会に勢揃いした1000名に近い新年度の全クラブの役員、委員の皆さんの力強い新陣容を目のあたりに見て、またそのおひとりおひとりと親しく接してお話を

交わすうちに、巨きな希望が自ずと湧き上ってくるのを、ひしひしと感ずるのであった。新会長 Ernesto Imbassahy de Mello 氏のターゲット“to dignify the human being”は、わが国で「人間に威信を」と訳された。最初このターゲットを示されたとき、これは余りにも哲学的だなといった人があったようであるが、新会長はこの短い標語につづいて、15項目にわたってロータリアンとしての心がけ及びその行動指針を細々と明示していらる。

われわれはそれをよく味読して、これからのロータリー生活の行動基準を樹立し、互に人間性を尊重しながら自らを磨き、地域社会に奉仕し、国際理解を深めて世界の平和を希求しなければならない。

ロータリーは1905年 Paul Harris 先生の創始以来、年々に個人奉仕の拡充、クラブとして、また地区として、奉仕活動の国際的なひろがりをおさめ積み上げて、ことし寿齢70年に達した。ハリスに発源した信念は、その永続性がいささかも揺るごとくなく、しかもロータリアンの奉仕実践は伸びに伸びて、寸時といえども固定することはあり得なかった。

三半世紀に迫る輝やかしい足跡。70年といえは人間の生涯でいうと既に老境だといってよいかも知れぬが、ロータリーにおいてはますます若々しく、いよいよ瑞々しい青年性を発揚し、これからも人間の友愛と親睦を基盤として、新年度の行動企画を推し進めてゆきたい。その具体的な方策については、各クラブの皆さんと互に協議検討し、緊密なる協力のもとに使命を達成したいものである。いちばん必要なことは、各クラブにおいて、もっともっと地域社会を知り、その要望するところが何であるかを確実に把握して、クラブは常に地域と固く結びついて進もうという肚を据えて、新年度活動のスタートを切りたいと念願している。